

も い 森 林 の 話

第12話

根釧西部森林管理署

西浦 燿

採用二年目の若手職員のコーナーです

アメマス(雨鱒)という魚を「存じでしようか?」

北海道内に広く生息しているサケ科の魚で、体に白点があるのが特徴です。

秋になると産卵のため海から川に上る魚といえはサケやカラフトマスが有名ですが、筆者の主な仕事場である弟子屈町内の河川にはアメマスが遡上します。



アメマスのつがい (夫婦)

一般的に山林内を流れる河川は水深が浅く、大型の魚の住みやすい環境ではありません。弟子屈町の河川もその例に漏れず、水深が10cm程度の箇所も多く存在します。そのような場所を、右の写真のような個体(50cm程度だと思われる)

す)が海から遡上してきたことを考えると、その生命力の強さには驚かされます。



休日に釣ったアメマス

先に述べたように、アメマスは生息域が広く、個体数も多いため、珍しい魚ではありません。

しかし、釣りの対象魚として人気があり、弟子屈町の河川の下流域に当たる釧路川でもアメマスを狙う釣り人が多くみられます。

また、アメマスはアイヌの伝承にも「災害を起こす魚」として、たびたび登場します。ここでは弟子屈町に関連する2つの伝承を紹介いたします。

「アイヌの英雄が屈斜路湖で暴れる大きなアメマスを押さえつけた際に山が崩れて、中島ができた。弟子屈地域に地震が多い理由は、その際下敷きになったアメマスがまだ死にきれずに暴れるからだ。」という伝承や、「摩周湖に棲むアメマスがシカを丸呑みした際に角が喉に刺さって死んでしまい、アメマスの体が川を塞いでしまった。湖があふれそうになったため、そのアメマスを引っ張り出したところ流れ出した水で洪水が起きた。」といった伝承があるそうです。



摩周岳から見た摩周湖

生物の保護という絶滅危惧種のような希少な生物

を思い浮かべがちですが、アメマスのように趣味や民話等、様々な方法で人々を楽しませてくれる生物はたくさんいるかと思えます。広報誌の執筆にあたって、改めてこういった生物の棲みやすい環境をつくっていくことの大切さについて、考えさせられました。

最近ではコロナ禍の影響もあってか、アウトドアに関心を持つ方が増えているように思えます。

初心者の方がいきなり登山・キャンプ等をするのは少しハードルが高いかもしれませんが、自然観察を通じて自然とふれあうことは誰にでも簡単にできます。

例えば、家の周りにある街路樹や鳥の写真を撮ったり、インターネットで調べたりするだけでも、面白い発見があるかもしれません。コロナ禍で大変なご時世ですが、外出した際には身の周りの生き物に目を向けてみてはいかがでしょうか。